# 20［評論］『社会学入門』

［１］　社会の理想的なあり方を構想する仕方には、原的に異なった二つの発想の様式がある。

［２］　一方は、歓びと感動に充ちた生のあり方、関係のあり方を追求し、現実の内に実現することをめざすものである。一方は、人間が相互に他者として生きるということの現実から来る不幸や抑圧を、最小のものに止めるルールを明確化してゆこうとするものである。これは、社会思想史の歴史的な分類ではなく、社会の思想の①現在的な課題の構造である。社会思想史的にいうなら、そのどちらでもないようなもの、プラトンからスターリンに至る、さまざまなイデオロギーや宗教を前提とした社会の構想史があるが、現在のわれわれにとって意味のある社会の構想の発想の様式は、究極、この二つに集約されるといっていい。

［３］　前者は、関係の積極的な実質を創出する課題。

［４］　後者は、関係の消極的な形式を設定する課題。

［５］　②二つの課題は、人間にとっての他者の、原的な両義性に対応している。他者は第一に、人間にとって、生きるということの意味の感覚と、あらゆる歓びと感動の源泉である。一切の他者の死滅したのちの宇宙に存続する永遠の生というものは、③死と等しいといっていいものである。〔わたしは子どもの頃「永遠の生」を願って、この願いの実現した幾兆年後の宇宙空間にただひとりでわたしが生きている生を想像してみて、他者のない生の空虚に慄然としたことがある。〕他者は第二に、人間にとって生きるということの不幸と制約の、ほとんどの形態の源泉である。サルトルが言っていたように、「地獄とは他者に他ならない」。想像のものでなく現実のものとしての地獄は、（無理をして例外を思い浮かべることはできるが、）ほとんどが、他者の地獄に他ならない。

［６］　社会の理想的なあり方を構想する仕方の発想の二つの様式は、こんにち対立するもののように現れているが、たがいに相補するものとして考えておくことができる。一方は美しく歓びに充ちた関係のユートピアたちを多彩に構想し、他方はこのようなユートピアたちが、それを望まない人たちにまで強いられる抑圧に転ａカすることを警戒し、予防するルールのシステムを設計する。両者の構想者たちの間には、ほとんど「体質的」とさえ感じられる反発が火花を散らすことがあるが、一方のない他方は空虚なものであり、他方のない一方は危険なものである。それはこのような社会の構想の課題の二重性が、人間にとっての他者の、原的な両義性に対応しているからである。

［７］　〈他者の両義性〉の内、生きるということの意味と歓びの源泉である限りの他者と、生きるということの困難と制約の源泉である限りの他者とは、その圏域を異にしている。圏域を異にしているということの単純な認識が、社会構想の理論にとって、実質上決定的な意味を持つ前提である。たとえば二〇世紀を賭けた「コミュニズム」という巨大な実験の破ｂタンは、この圏域の異なりに無自覚であったということに起因するとさえいってよいものである。全域的ではありえないものの美しい夢を、全域的であるもののように、ありうるもののように、あるべきもののように、あるはずのもののように、幻想した④自己欺瞞の内にあったとさえいってよいものである。

［８］　「人はどれだけの土地を必要とするか」というロシアの童話があるが、人はどれだけの関係を必要とするかということを、わたしたちは問うてみることができる。他者のない生は空虚であり、先にみたように、一切の他者の死滅した後にただ一人永遠の生を享受する生は、ほとんど永劫の死と変わりのないものであるが、この生が生きるということの意味を取り戻し、歓びに充ちた生涯であるためにさえ、他者はたとえば、数人で充分であるということもできる。わたしの思考実験では、極限の場合、激しい相互的な愛が存在している限り、この他者は一人であっても、なお永劫の生を意味づけるに足るものである。対をもって最小となすというアルセストみたいな思考には批判があるかもしれないし、わたしもこの点に理論上固執するつもりはないが、最大限に考えて数十人という、純粋に愛し合う人びとに囲まれた生が、歓びに充ちた生であることにとって、なお不足があるというよくばりな人は、少ないと思う。

［９］　もちろんわれわれは現実の構造の中で、数万人、幾百万人、幾億人という他者たちなしには、生きていけない。現代日本の都市に住む平均的な階ｃソウの一人の人間を考えてみれば、食料を生産する国内・国外の農民たち、牧畜者たち、石油を産出する国々の労働者たち、これら幾億の他者たちの存在なしには、一つの冬を越すことも困難である。この意味で人は、幾億の他者たちを「必要としている」ということもできる。けれどもこのような、生存の条件の支え手としての他者たちの必要ならば、それは他者たちの労働や能力や機能の必要ということであって、何か純粋に魔法の力のようなものによって、あるいは純粋に機械の力か、自然の力等々によって、それが充分に供給されることがあればよいというものであり、この他者が他者でなければならないというものではない。つまり他の人間的な主体でなければならないというものではない。他者が他者として、純粋に生きていることの意味や歓びの源泉である限りの他者は、その圏域を事実的に限定されている。

［10］　これに対して、他者の両義性の内、生きるということの困難と制約の源泉としての他者の圏域は、⑤必ず社会の全域をおおうものである。

［11］　現代のように、たとえば石油の産出国の労働者たちの仕事にわれわれの生が依存し、またわれわれの生のかたちが、フロンガスの排出等々をとおして、南半球の人びとの生の困難や制約をさえ帰結してしまうことのある世界にあっては、このような他者との関係のルールの構想は、国家や大陸という圏域の内部にさえ限定されることができない。たとえば一国の内域的な社会の幸福を、他の大陸や、同じ大陸の他の諸地域の人びとの不幸を帰結するような仕方で構想することはできない。

［12］　つまりわれわれの社会の構想の二重の課題は、関係の射ｄテイの圏域を異にしている。

●出題校

法政大学

●語注

プラトン＝古代ギリシアの哲学者。紀元前四二七〜三四七年。

スターリン＝ソビエト連邦共産党中央委員会書記長。一八七九〜一九五三年。

サルトル＝フランスの哲学者、作家。一九〇五〜一九八〇年。

ユートピア＝想像上の理想的な社会。

コミュニズム＝共産主義。

アルセスト＝モリエール（一六二二〜七三）の喜劇『人間ぎらい』に登場する理想主義者の青年。

■覚えておきたい語句

□６イデオロギー…………政治的、社会的な思想傾向。

□10両義性…………………一つの言葉が二重の意味を持つという性質。

□14慄然……………………恐しさに震えおののくさま。ぞっとするさま。

□20転カ……………………自分の過失や責任などを他人になすりつけること。

□30自己欺瞞………………自分の本心を偽って、それを無理に正当化すること。

□34永劫……………………無限に長い年月。⇔刹那

□38固執……………………自分の意見を固く主張して曲げないこと。固持。

□53帰結……………………種々の経過の後、物事が最終的に落ちつくこと。

□57射テイ……………………力の及ぶ範囲。

◆漢字

　本文中の二重傍線部ａ〜ｄのカタカナの漢字と同じ漢字を用いるものを次からそれぞれ選べ。

ａ　ア　調味料をクワえる。

　　イ　ヨメと姑との関係。

ウ　仏のケ身。

エ　上意カ達。

オ　カ中の栗を拾う。

ｂ　ア　足腰をキタえる。

イ　ホコロびを繕う。

ウ　役割をニナう。

エ　読書にフケる。

オ　事件をナゲく。

ｃ　ア　ソウ意工夫。

イ　ソウ行会を開く。

ウ　過剰な包ソウ。

エ　地ソウがむき出し。

オ　節ソウがない。

ｄ　ア　テイ辺が長い。

イ　テイ度の問題である。

ウ　物資をテイ供する。

エ　誤りをテイ正した。

オ　一旦テイ止する。

問１　傍線部①とは何のための課題なのか。最も適当なものを次から選べ。【読みのセオリー】（７点）

ア　わたしの歓びや感動に充ちた生き方の実現に向けて、他者を制約するルールを決めるため。

イ　他者によってもたらされる不幸や抑圧に対抗し、他者に勝利する方策を明確化するため。

ウ　現在のわれわれにとっての理想的な社会のあり方を構想するため。

エ　多様なイデオロギーや宗教を前提とした社会を構想するため。

オ　社会思想史上の歴史的な分類を現在のわれわれにとって意味のあるものにするため。

〔　　　〕

問２　傍線部②「二つの課題」は、著者によってどのような関係と位置づけられているか。最も適当なものを次から選べ。（７点）

ア　たがいに独立して干渉しない関係

イ　たがいに反発し合っている関係

ウ　一方がなければ他方も成立しない関係

エ　たがいにたがいを必要とする関係

オ　どちらか一方しか成り立たない関係

〔　　　〕

問３　傍線部③とあるが、なぜそういえるのか。その理由として、最も適当なものを次から選べ。（７点）

ア　他者がいるからこそ孤独を楽しむことができるから。

イ　わたしの人生の意味や歓びは、他者によってもたらされるから。

ウ　さまざまなイデオロギーや宗教は、他者によって作られたものであるから。

エ　人は、他者がもたらす不幸や抑圧に対抗して生きているから。

オ　他者こそが、食料などの生存の条件を支えてくれているから。

〔　　　〕

問４　傍線部④とはどのようなことを意味しているか。三〇字以内で説明せよ。（10点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部⑤とあるが、なぜそういえるのか。その理由として最も適当なものを、次から選べ。（７点）

ア　自分の生存が誰によって支えられているのかを把握することはできないから。

イ　自分以外の人は、すべてわたしにとっての「他者」であるといえるから。

ウ　魔法の力は存在しないので、私の生にとって幾億もの他者の存在が必要であるから。

エ　一切の他者が死滅したのちなどという事態は、思考実験の中でしか想定できないから。

オ　自分の意図とは無関係に、不特定の人の生に不幸や抑圧を押しつけてしまうかもしれないから。

〔　　　〕

問６　本文の内容と合致するものを次からすべて選べ。（12点）

ア　他者との関係において必要とされる「消極的な形式」とは、人々がおたがいを不幸にしないために取り決めるべき約束事である。

イ　他者とは、私の生きる歓びや感動の源泉であるからこそ、「地獄」とも呼ばれうる存在となる。

ウ　社会構想の二つの様式は、圏域を異にしているため、たがいに反発し合う二重性にとどまる。

エ　美しく歓びに充ちた生のあり方もまた、他者に対する抑圧となりうる危険性を有している。

オ　わたしと相互的な愛を交わす他者の数に比例して、その生は歓びに充ちたものとなり、逆に、他者のない生は空虚なものとなる。

カ　ある圏域の幸福は、原理的に別の圏域の不幸を帰結してしまうものである。

〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ＝イ（転嫁）　ｂ＝イ（破綻）　ｃ＝エ（階層）　ｄ＝イ（射程）

問１　ウ

問２　ウ

問３　イ

問４　全域的ではありえないものを、あるもののように幻想したこと。（29字）

問５　オ

問６　ア・エ（６点×２。不正解の選択肢があれば、それぞれ５点減点）

【読みのセオリー】

★指示内容の発見と確認

①　原則的には指示語から本文を遡るようにして指示内容を見つけていく。この場合、まず直前の文から探していくのが順当な方法となる。

②　指示内容の見当がついたら、その該当箇所を指示語の部分に代入してみて、その整合性を確かめることを怠ってはならない。

【現代文読解用語200】

問　次の言葉の意味をそれぞれ後から選べ。

156（　　）

157懐疑（　　）

158（　　）

159相克（　　）

160（　　）

161添加（　　）

162礼賛（　　）

163（　　）

164（　　）

165払拭（　　）

ア　疑いをもつこと。

イ　十分にたくわえた深い学問や知識。

ウ　物事がこれから先どうなってゆくかという様子。

エ　伝わり広まること。

オ　ある物に他の物を付け加えること。

カ　すっかり取り除くこと。

キ　ほめたたえること。

ク　対立・矛盾する二つのものが互いに打ち勝とうと争うこと。

ケ　さまようこと。

コ　からかうこと。

【解答】

156ウ　157ア　158イ　159ク　160エ　161オ　162キ　163コ　164ケ　165カ

〔要　約〕

　［１］〜［４］段落で示された社会構想における二つの発想様式や課題のそれぞれを、［７］・［９］・［10］段落によって整理する。［12］段落は［７］段落の言い換えのようでもあるが、社会の構想についてまとめているので最終的な結論と捉える。

　　　　　↓

　社会のあり方を構想する発想様式は、他者が生きる歓びの源泉である場合、その圏域は限定されるが、他者が生きる困難の源泉である場合、その圏域は全域的である。社会構想の二重の課題は、関係の圏域を異にしている。（100字）

〈筆者＆出典〉見田宗介（みた・むねすけ）一九三七（昭和12）年東京生まれ。社会学者。東京大学名誉教授。内田隆三や吉見俊哉など、多くの社会学者が、見田氏のコミューン思想に影響を受けたとされる。真木悠介という筆名での著作もある。本文は、『社会学入門―人間と社会の未来』（岩波新書）より。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

＊差し替え

問２　傍線部②の「二つの課題」は、著者によってどのような関係にあると述べられているか。本文中から10字以内で抜き出して答えよ。

［答］たがいに相補するもの（10字）

＊新問

問７　本文12段落に「われわれの社会の構想の二重の課題は、関係の射テイの圏域を異にしている。」とあるが、どのように異なっているのかを説明せよ。

［答］生きる歓びの源泉である限りの他者は、その圏域を事実的に限定されているが、生きる困難の源泉としての他者の圏域は、限定されない。

＊（語彙）追加

⑨ディテール　（　　）

⑩ペシミズム　（　　）

　ケ　詳細。細部。

　コ　悲観主義。厭世主義。

［答］⑨ケ　　⑩コ

■要約の方法　★各段落の柱の文をもとに各段落を要約する

《本文を形式段落［12］段落で考える》

［１］　社会の理想的なあり方の構想には、異なる二つの発想様式がある。

［２］　一方は、歓びと感動に充ちた関係を実現することをめざす。一方は、不幸や抑圧を最小限に止めるルールを明確化してゆこうとする。（第１・２文）

［３］　前者は、関係の積極的な実質を創出する課題。

［４］　後者は、関係の消極的な形式を設定する課題。

［５］　二つの課題は、第一に生きる意味や歓びと感動の源泉であり、第二には生きることの不幸と制約の形態の源泉であり、他者の両義性に対応している。（第１・２・５文）

［６］　二つの様式は、たがいに相補するものだ。（第１文）

［７］　生きる意味と歓びの源泉である他者と、生きる困難と制約の源泉である他者とは、その圏域を異にしている。（第１文）

［８］　生きる意味と歓びに充ちた生涯のための他者は、数人で充分だ。（第２文）

［９］　生きる意味や歓びの源泉である他者は、その圏域を限定されている。（第６文）

［10］　（これに対し）生きる困難と制約の源泉としての他者の圏域は、社会の全域をおおう。（第１文）

［11］　現代世界の他者との関係のルールの構想では、国家や大陸という限定もない。（第１文）

［12］　社会の構想の二重の課題は、関係の射程の圏域を異にしている。

　　　　　↓

《他の段落の説明や理由を述べている段落を省き、柱の段落を絞り込む。さらに柱の段落をつなぎ合わせる》

［１］段落で示された二つの構想の仕方のそれぞれを、［７］段落、［９］段落、［10］段落によって整理する。［12］段落は［７］段落の言い換えであるが、まとめ的な述べ方なので最終的な結論ととらえる。

■本文の要約■

社会のあり方の構想には二つの異なる発想様式がある。他者が生きる歓びの源泉である場合その圏域は限定され、他者が生きる困難の源泉である場合その圏域は全域的である。社会構想の二重の課題は関係圏域を異にする。（100字）